

2 月下旬になると樹液の流動が始まりますので、トンネル・露地では 2 月中旬までに必ずせん定を終えてください。2 月に入り、ハウス栽培では被覆、加温が本格的に始まります。初期生育を揃えるために温湿度管理を丁寧に行ってください。

R5 年産のブドウについては、着色不良や小玉傾向などの課題が見られました。気象的な要因も大きいですが、管理作業の中で改善できることも多くあります。発芽前や生育初期の管理をはじめとして、生育段階に合わせた適期管理に努めましょう。

【ハウス栽培】

○ビニール被覆～加温開始

ビニール被覆前後はハウス内を湿潤状態に保ちます。かん水は 2～3 日連続して行い主要根群域まで浸透させます。かん水は地温が下がらないように、晴天時の午前中に行います。また、地面に直接日光が当たるように除草を行い地温を上昇させましょう。

被覆後は、ハウスを密閉状態とし、こまめなかん水や枝水散水で高温多湿状態（昼温 35℃、湿度 90%）を保ち、萌芽を促進させます。40℃を超える高温や乾燥は発芽不良の原因となるため、十分に注意しましょう。

○加温後

被覆後、5～7 日程度で加温を開始しますが、萌芽が確認できるまでは高温多湿状態を維持します。

昼間の最高気温は萌芽開始（30℃）→展葉開始（28℃）→展葉 4～5 枚（26℃）→展葉 7～8 枚（26℃）とします。気温が高ければ生育も早いですが、生育がバラつき、花ぶるいの原因になります。開花前は新梢の生育を揃え、一斉に開花できる状態が理想です。ハウス内の気温が高くなりすぎないように換気はこまめに行いましょう。換気を行う際は二重カーテンを利用して、急激な温度変化が起きないように注意して行いましょう。

夜間の最低気温は萌芽開始（12℃）→展葉開始（14℃）→展葉 4～5 枚（16℃）→展葉 7～8 枚（18℃）と徐々に昇温します。

○芽かき

長梢せん定は、副芽や不定芽をかぐ程度とし、できるだけ葉数を確保します。長梢・短梢ともに同じ芽から副芽が発生している場合や確実に利用しない芽は早急に芽かきを行い、貯蔵養分の浪費を防いでください。

○新梢管理

新梢・花穂の充実には、十分な日照が必要となります。生育が早く、展葉の進んだ長い新梢は、他の新梢の受光を妨げ、新梢の重なりによる作業性の悪化の原因となります。今後の作業負担軽減にもなるので、伸長の旺盛なものからこまめに誘引を行い、受光態勢を整えましょう。

新梢の伸長が悪い場合は、晴天時の午前中にメリット青（500倍、N主体）などの葉面散布を実施してください。

【露地・トンネル】

○側枝・結果枝の誘引・配置

長梢せん定のブドウでは、主枝先端の結果枝は主枝伸長方向に誘引し、主幹に近づくにつれ、側枝・結果枝を返し気味に誘引して枝の勢いを揃えます。また、結果枝の勢力が異なると生育がバラつき、果実品質に差が生まれるので、できるだけ徒長的な枝と弱い枝が混在しないように枝を選定しましょう。

○芽傷処理

長梢せん定で強い枝が多い樹や短梢せん定で主枝育成中の若木では確実に発芽させるために、樹液流動前（露地の場合2月中～下旬）に芽の上部5mm程度の位置に芽傷処理を行います。芽傷処理後は枝が折れやすくなるため、棚面への誘引が終わってから芽傷処理を行いましょう。併せてメリット青（2倍希釈）等の利用で発芽率が向上します。

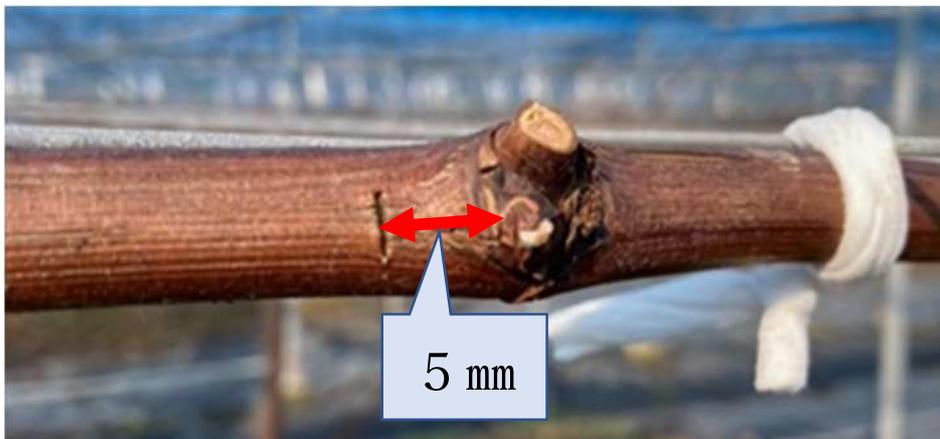


図1 芽傷処理の位置